



日本ベンジャミン人間性英才学校
Japan Benjamin School for Character Education

ベンジャミン

通信

2018/2/15発行

第38号

2期生
成長ストーリー

日本ベンジャミン人間性英才学校からグッドニュースや生徒たちの成長をお届けします

国際理解とアクションができる人へ 噴火被害のインドネシアに寄付

2期生の小川実桜(おがわ・みお)さんが、インドネシアの子供たちのために文房具や寄付金を集めて送るプロジェクトを行いました。

2期生
成長ストーリー



日本ベンジャミン人間性英才学校
2期生 小川 実桜さん

一般の高校にも通っている実桜さんは、国際理解という授業の中で「世界には自分と同じような年齢であっても、低賃金で働いている子供がいる」ということを学び、何か力になりたいと思いました。そこで募金と寄付を呼びかけ、12月24日に奈良県で行われた Earth

Citizen Festivalで、募金12,216円・ノート45冊・塗り絵45冊・色鉛筆10箱などを集めることができました。

今回、寄付をしたのはインドネシアのバリ島にあるTK・SEMARA GIRI KUSUMA 学校です。昨年11月に噴火したアグン山の火山活動が大きな被害をもたらし、その影響でこの学校が崩壊してしまったことを知ったからです。



入学前の実桜さんは「きっと出来ないだろう」「また今度でもいいだろう」と物事に対して消極的でした。しかし入学後、新しいことに挑戦していく中で、視野が広がり問題解決能力が身に

つき、学校で学んだことをただ「理解」ととどめるのではなく、彼らのために自分は何をすることができると考えて「アクション」ができるようになった。



「たくさんの人がプロジェクトに協力してくださり、助け合いの大切さを学びました。誰かのためにという気持ちは本当に温かいなと思いました。現地の子供たちの笑顔も見ることができ、自分にも人を助けることが出来るんだと実感することができました。

でも実際にやってみたら、子供たちが一番嬉しいのは学校・いい仕事・安全な食事などが整えられることではないのかなとも思い、次へと進むヒントを手に入れることが出来ました。今後の目標はもっと世界のことを学び、世界中に友達を作り、国際社会を身近なものにすることです。」



学んだことを行動に移し、さらに考える姿は、真のグローバル人材・人間性英才です。好奇心を広げ、学校という枠を超え世界を学び舎として成長する、そんな1年を体験してください。

ベンジャミン人間性英才学校は

ブレインワークショップ(メンター特別講義、ベンジャミンリーダーシップ教育、地球市民教育など)、ベンジャミンプロジェクト(世界に役立つ独自のテーマを決めてメンターのサポートを受けながら1年間生徒が自ら進行していくプロジェクト)、メンタリング(様々な分野のメンターから個別にアドバイスをもらう)などのプログラムで、自己啓発、自己省察、進路体験活動などをしながら、自分で人生を作っていく力を養います。



校舎 教科授業 テスト 成績表 宿題